

令和2年度授業改善推進プラン

(取り組み内容)

- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
- ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
- ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 (国語) 教科担任名 清水雅子

★教科・観点について

期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期			2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	2学期終了後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
国語への関心・意欲・態度	1年	▲苦手意識が強い。自信がない。発言しない。	コロナ休業により、5月20日授業開始。開始3週間後になって、元気が出てきた。生徒会週間の取り組みと並行して、授業態度も積極的になった。既習事項の復習などを活用して自信を持たせる。	1年	○少しずつ意欲が高まっている。間違いを恐れない	授業中の気づき、つぶやきを取り上げていく。指示を具体的に出す。教科書の文章に立ち返らせる。クイズや豆知識、他の教科との関連事項を意識的に取り入れ、好奇心を育てる。	
	2年			2年			
	3年			3年			
話す・聞く能力	1年	▲聞き取りの苦手な生徒がいる。 ○班での話し合っていて、分担を決めて話し合うことができた。	話す・聞く体験を、なるべく増やす。ヒントを出して、ポイントをとらえやすくする。	1年	▲語彙が貧困なので、聞き取り間違いや誤解が生じやすい。 ○ソーシャルディスタンスを取りながら、話し合い活動を取り入れられるようになり、やり方が身	カルタの読み手をするにより、聞く側の身になって、大きな声で言う経験、前で一人ずつ発表する経験を増やす。 ポイントをとらえ集中して聞かせる。	
	2年			2年			
	3年			3年			
書く能力	1年	▲文字のバランスを考えて書けない。作文の書きだしに時間がかかる。 ○自分の言葉で表現しようと努力している。	硬筆の授業の時間を定期的に組む。 作文の書きだしパターンを工夫した課題を設定する。	1年	▲書き順の基本が身につけていない。漢字の左右が逆になる。小学校の漢字が書けない。 ○双括弧のパターンの意見文を書けた。	書き順の原則を書写の時間などに徹底する。 漢字の成り立ち、音訓などの復習。 定期テストの作文を20～30、40～50、80～100字など長さを変えて出題する。	
	2年			2年			
	3年			3年			
読む能力	1年	○最初の予想より、読解力はあるようだ。授業中に自信をもって、発言できる空気を作り、いろいろな角度から物事を捉える目を養いたい。	気付く→つぶやく→発言する→気付きを深める。という流れを作り、友達の気づきに共感し、より深い読みへと導く。そのための教師の発問を工夫する。	1年	○友達の気づきに共感する雰囲気が出てきた。	間違っても受け入れる雰囲気、全面的に間違っただけではなくいいことに気づけたことをフィードバックする。難易度が高いレベルの発問もまぜて刺激するなど、集中を途切れさせない発問の工夫で読みを深める。	
	2年			2年			
	3年			3年			
言語についての知識・理解・技能	1年	▲漢字の定着率が低い。語彙が乏しい。	クイズやゲームなどを利用して、関心を高める。小テストを繰り返す。	1年	▲漢字の定着が悪い。文法問題の理解度は標準だが、定着しない。	クイズなどで、漢字の興味関心は高まった。定着させるには、小テストだけでなく日常生活の使用頻度を増やす。 文法は1か月ぐらい間をあけて復習する。定期テストで既習事項を出題する。	
	2年			2年			
	3年			3年			
授業改善の検証方法	授業アンケート、定期考査、小テスト、スピーチ、聞き取りテスト、提出物、作文、創作						
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題		
人間関係形成能力	自分自身の気づきを大切にする。友達の気づきも大切に。より深い読みを共有する。班で、全体で意見交換できる場を作る。	国語に苦手意識が高い生徒が3分の1いたが、授業形態に変化を持たせることにより、関心意欲が高まりつつある。まずは、楽しめる事を目標にし、徐々に深める。	クイズや豆知識、発表、寸劇、話し合い、カルタなど動きを伴う授業を増やす。	クイズや豆知識を増やしたことで、興味関心が高まり、意欲が向上し、集中力も高まった。2学期は、発表、寸劇、話し合い、カルタなど動きを伴う授業を増やし、表現力が向上した。			